

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## ～ 情報化、グローバル化に対応し、国内外で社会貢献できる人物を育てる学校をめざす ～

1. 生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することをめざすとともに、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育む
2. 多文化理解教育を一層推進し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力に加えて世界の国の文化や伝統を理解し尊重する態度を身につけることで、文化が異なる人々と協働して社会の諸問題の解決に向けて積極的に行動する人物を育てる
3. 豊かな心や社会人基礎力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を育成する

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成【授業力】

- (1) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する
  - ア 生徒にめざす資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進める
  - イ 各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質を向上させる
  - ウ 単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていく
  - エ 生徒が学習において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにするために、教師が専門性を発揮する
  - オ ICT等を活用して学習活動等を充実する
    - ※ 学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の肯定的回答を令和5年度70%となることを目標とする(H30:57.9%, R01:59.0%, R02:66.6%)
    - ※ 授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定的回答を令和5年度も80%台を維持することを目標とする(H30:80.5%, R01:80.5%, R02:81.7%)
    - ※ 授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」についての肯定的回答を令和5年度も80%台を維持することを目標とする(H30:82.5%, R01:83.7%, R02:85.6%)
    - ※ 英語検定準2級相当以上の合格者合計が令和5年度180名となることを目標とする(H30:150名, R1:212名, R2:67名)
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。また、これらを活用してSDGsの諸問題を始めたとした様々な課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む
- (3) 個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮する
  - ※ 大学入学共通テストに向けた対応、英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験の活用を図る
  - ※ 国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役の合格者数が令和5年度には200名となることを目標とする(H30:166名, R1:136名, R2:186名)

## 2 豊かな心・社会人基礎力の育成【自律・自己実現】

- (1) 体験活動や、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養をめざした教育の充実に努める
  - ア 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間やHRを活用し、生徒の生きる力の醸成を図る
  - イ 部活動や有志の地域行事への参加等を通して、ボランティア活動への意識を高める
- (2) 豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、社会の発展に努め、他の国や文化を尊重し、未来を拓く主体性のある人物の育成に努める
  - ア 普通科、国際教養科（国際文化科）の両科とも国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外語学研修や留学生受入れ等に取り組むとともに日本文化への理解を深める
  - イ 学校行事、国際関連行事、語学研修や部活動を通し、社会人基礎力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。また、生徒が夢や志を持って自身の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を育む
  - ウ 生徒が自己探求と自己実現に努め、社会の一員としての自覚に基づき行動しうる発達の段階にあることから、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる社会性を養う
  - エ 集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、「協調友愛（校訓）」の精神を培い、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む
- (3) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む
  - ア 自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する
  - イ 学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う
    - ※ 頭髪、服装の乱れ、不注意による遅刻がないように指導を継続する 遅刻について、令和4年度1500件程度に減ずることを目標とする(H30:3067件, R1:2857件, R2:1458件)
    - ※ 部活動加入率（3学年平均）が令和4年度には70%になることを目標とする。(H30:66.5%, R1:69.7%, R02:57.9%)
- (4) 安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにする。

## 3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】

- (1) 学習活動、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、学校全体で「旭で伸ばす」の目標を持ち、邁進できる組織を構築する
  - ア 将来構想委員会を核として、「これからの旭」の課題解決を図るとともに、教職員が常に「改善」の意識を持ち、PDCAによる学校改革、授業改善に更に一丸となって取り組むよう努める
  - イ 「大阪府立高等学校再編整備計画（2019年度から2023年度）」に基づき、これまでの取組みを発展・深化するように検討する
  - ウ 運営会議、職員会議などの充実を図り、教職員間の意思の疎通を図る。よりよい校務分担体制を確立し、学校運営を円滑に行う
- (2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する
  - ア ICTを活用した取り組みを推進し教職員が機器を効率よく使用できるよう研修を行う。生徒の学びの深化を図ると同時に、校務の効率化に繋げる。さらに、経費削減の意識を持って教職員間で使用するペーパーの削減をめざす
  - イ 学校休業日や部活動休養日の設定などに取組み、生徒、教職員が心身ともに健全であるように努める
- (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実を図る
  - ア ホームページやパンフレット等を充実させて情報発信することにより広く学校を理解してもらえるように努める
  - イ 招致される進学説明会等の参加への改善を図るとともに、学校主催のオープンスクールの見直しを行う
    - ※ 高校入試の応募状況等から招致される進学説明会への参加や本校教員の中学訪問を検討する。オープンスクールは年3回開催し、中学生、保護者の申込者数を併せて、毎回定員を超えることを目標とする
  - ウ 校内美化に努めるとともに、校内設備の安全と充実を図る

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
.	<input type="checkbox"/> 第1回(月日) <input type="checkbox"/> 第2回(月日) <input type="checkbox"/> 第3回(月日)

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成 授業力	(1) 言語能力, 情報活用能力, 問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や, 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する	(1) ア①「主体的な学び」 本校の「キャリア・パスポート」である「AsahiCard」を活用する。学びのプロセスを生徒自身が記録し蓄積することで変化や成長を自己評価し、キャリア形成と自己実現につなげる。 ②「対話的な学び」 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している話を聞いたりすることで自らの考えを広めるとともに、生徒自らが考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする。 ・社会人講話や模擬授業を各学年3回実施する。 ③「深い学び」 令和4年度から始まる「総合的な探究の時間」に向けて委員会を立ち上げ指導の方向性を確立させるとともに、現在の国際教養科の課題研究の時間を発表に結び付けて充実させる。  イウエ 学習活動の質の向上 ①指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、それに加えて、生徒の思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を研究する。  ②質の高い授業を提供することで生徒が自らのキャリア形成への意識を高め、さらに希望する進路実現につなげる。 ・学力診断テスト、模擬試験等を学年毎2回以上実施 ・進路に関する説明会及び講演会を4回以上実施 ・大学見学会、卒業生と懇談、大学による模擬授業1回実施	●学びへの取組み ア①Asahi Cardの充実 各学年10枚以上書きためる。  ア②学校教育自己診断 将来の進路や生き方について考える機会がある。 肯定評価85%以上 [88.5]  ア③委員会を立ち上げ令和3年度中に、1年次の指導についてと2年次の担当教員が探究指導を行う際の指導マニュアル完成  ア③国際教養科2年次の課題研究校内発表会をSDGsの取組みを基に探究活動をし、最終授業でのアンケートで「SDGsについての問題を考え議論することができた」の肯定評価100%  イウエ①相互授業見学100% イウエ①学校教育自己診断 「授業はわかりやすい」についての肯定的回答、65%以上を維持する [66.6%] イウエ①学校教育自己診断 生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。85%以上 [84.1%] イウエ①授業アンケート結果 「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答、80%以上を維持する [81.7%]  イウエ②補習・講習など各種講習を充実させ、学習の機会を増やす 各学年補修講習 1年2教科 2年2教科 3年3教科以上 各教科10回/年 イウエ②授業アンケート結果 「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答、80%以上を維持する。[83.7%]	

		<p>オ ICT等を活用して学習活動等を充実する                  ①GIGA スクール構想を踏まえ、教員が必要に応じてHR 活動や授業でICTを活用できるようにする。                  ②授業、その他で、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>●進路実現                  イウエ②国公立大学及び難関私立大                  学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役の合格者数を200名とする                  [186]                  イウエ②生徒一人ひとりが興味・関心、適正に応じて進路選択ができるよう、指導を行っている。肯定評価80%以上を維持する [84.1%]                  オグループウェアおよびICTの活用について研修を行うとともにアンケートを実施する。教員の活用目標100%</p>	
<p>2                  豊かな心・社会人基礎力の育成                  自律・自己実現</p>	<p>（3）学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む</p>	<p>（3）                  ア自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる精神を醸成する。⇒「自主自律（校訓）」                  イ学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う                  ①生徒に服装を正す意味や挨拶の大切さを考えさせた上で、丁寧に行なう。                  ②携帯の扱いについて考えさせる機会を持つとともにSNSに関係するトラブルがないよう指導を行う。                  ・SNSに関するモラル指導、トラブルについての講習を行う。                  ②頭髪や服装の乱れに注意し、不注意による遅刻をなくすよう継続して指導する。また、挨拶を励行し礼儀を身につけて、社会人としての規範意識や協調性を培う</p>	<p>●社会人基礎力の醸成                  アAsahi Cardへの記録による振り返りとフィードバック                  学年通信や校長ブログを通じて記述を紹介することで啓発（5回程度）                  アメール配信、校長ブログ、式辞でメッセージを伝える（年間12回）                  ア学校教育自己診断                  「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定評価80%をめざす [79.5%]                  ア学校教育自己診断                  「人権について学ぶ機会がある」肯定評価80%をめざす [76.7%]                  イ学校教育自己診断                  「学校は生活規律や学習指導などの基本的習慣の確立に力をいれている」肯定評価80%をめざす [73.2%]                  ●生徒指導関係                  イ遅刻数1500件程度を維持する [1458件]                  イ①②学年生指による登校時の指導を毎日行う。                  イ学校教育自己診断                  生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。                  肯定評価80%以上をめざす [81.8]</p>	
<p>3                  学校の特色づくりと組織</p>	<p>（1）教育活動に関する教職員の共通理解を深め、「旭で伸ばす」の目標を持ち邁進できる組織を構築する</p>	<p>（1）                  ア 将来構想委員会を核として、「観点別評価」の試行、「総合的な探究の時間」「国際文化科」の充実をめざす。                  ①学校全体の課題を整理し、校内の各委員会に指示する                  ②国際文化科としての発展、深化を図る                  イ 組織的な対応                  ①時間をかけて立案実行すべきことは将来構想</p>	<p>●課題解決に向けて                  ア観点別評価方法を12月までに完成させて、1月に保護者と生徒への周知を行う。                  ア探究の時間の教員研修を立案、実施し、アンケート肯定評価8割をめざす。                  ●組織的対応について                  イ①学校教育自己診断</p>	

<p>力の向上</p> <p>学校運営</p>	<p>(2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を増やす</p>	<p>委員会で行い、各分掌での検討事案については運営委員会で確認することで、校内の課題を見えやすくする。</p> <p>②支援教育委員会で情報共有した内容を、必要に応じて外部との連携や、生徒指導部、いじめ対策委員会、教務部等へつなげる体制を整える。</p> <p>(2)</p> <p>ア ICTを活用した取り組みの推進</p> <p>①グループウェアの活用 教職員間メールや掲示板を活用する</p> <p>②校内でタブレットの活用事例を紹介することで全教職員が抵抗なく利用できる体制を整える。</p> <p>③校内の連絡事項はメール等を行うことで、会議の時間短縮と使用ペーパーの削減を図る</p> <p>④保護者連絡についてもできるだけ緊急メールを利用し、保護者への周知を図る</p>	<p>「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」肯定評価 60%をめざす [56.8%]</p> <p>イ②学校教育自己診断 「先生はいじめなど私たちがこまっていることについて真剣に対応してくれる。」肯定評価 70%をめざす [61.4%]</p> <p>ア①情報部とオンライン授業PTにより年度当初の様々な登録作業と活用のための研修を行い、活用 100%をめざす。</p> <p>ア③紙の使用を前年度 1 割減をめざす [更紙 840,000 枚]</p> <p>④学校教育自己診断 「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。」肯定評価 80%をめざす [76.3%]</p>	
-------------------------	------------------------------------	---	--	--